ことわざフォーラム 2024

災害とことわざ

ことわざ学会

http://kotowazagakkai.com/

2024 年 12 月 8 日（日）
杏林大学井の頭キャンパス・オンライン配信有

ことわざフォーラム 2024　プログラム

10:00　研究発表

八木橋宏勇（杏林大学教授）　「ことわざの鮮度はいかに保たれるか？」

玉村　禎郎（京都産業大学教授）　「仏教思想を背景にもつ教訓の発達」

大島　中正（同志社女子大学教授）　「ことわざの用法を分類する
—内容と形式に着目して—」

鄭芝淑（鹿児島大学准教授）　「『語法会話朝鮮語大成』の
ことわざについて」

北澤篤史（ことわざ百科サイト主宰者）「備えあれば憂いなし：ことわざを通して
意識づける災害時の命を守る知恵」

12:00　昼食休憩（12:05～　ことわざ学会総会）

13:00　ごあいさつ　佐竹 秀雄（ことわざ学会会長）

ワークショップ「ミニマムで学ぶ 世界のことわざ」

星野弥生（スペイン語）、鄭芝淑（韓国語）、千野明日香（中国語）ほか

14:00　公開講演

村山貢司氏（気象予報士）　「温暖化で変わる暮らしと天気のことわざ」

15:00　シンポジウム「災害とことわざ」

パネリスト：尾﨑光弘（元小学校教員）
永野恒雄（立正大学非常勤講師）
北村孝一（ことわざ研究者）

（17:00 頃 閉会）

ごあいさつ

ことわざ学会 会長
佐竹　秀雄

近年、日本では春と秋がなくなって二季になりつつある、という声がよく聞かれます。今年も秋がないまま、夏と冬が日替わりでやってくるような変な日々を味わいました。また、過去に類を見ない大雨や迷走台風気などのニュースに接するたび、気象に関する素人としては、元凶は温暖化なのだろうと思ったりしてしまいます。

もともと日本には地震、台風、雷による大火など、多くの災害がありました。それは私たちの日常生活に大きな影響をもたらしたはずです。それなら、当然、ことわざの世界も少なからぬ関わりがあると考えられます。私たちのご先祖様たちは、どのような思いで災害をとらえていたのでしょうか。ことわざという短い表現にこめられた思いを読み解くことには、人間観察、言語観察のどちらからも興味をそそられます。

今年のことわざフォーラムでは、そうした視点をからめた「災害とことわざ」がテーマに選ばれました。講演には、気象予報士で、長年 NHK テレビで気象解説を担当されていた村山貢司さんにお願いしてご快諾をいただきました。温暖化問題を含めて天気のことわざについてお話しくださいます。

また、午前中の研究発表でも、災害時のことわざについての報告があります。そして、シンポジウムでは、尾﨑光弘さん、永野恒雄さん、北村孝一さんの 3 人が、「災害とことわざ」をテーマにじっくりと討論を交わす予定です。

なお、午後のワークショップでは、〈ミニマムで学ぶ ことわざ〉シリーズ 6 冊（クレス出版）が完結したことにちなんだ企画が行なわれます。英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国語、中国語のことわざガイドブックがそろったところで、どんなことがみえてくるか、こちらも楽しみです。

今年は、諸般の事情により異例の日曜日の開催となりました。杏林大学の関係者の皆さんには、例年以上にご面倒をおかけすることになると存じます。ここに記して感謝の意を表します。

ことわざの鮮度はいかに保たれるか？

八木橋宏勇（杏林大学外国語学部）

【Chat GPT の回答①】（一部抜粋）

ことわざが死語にならず、長い間生き続けている理由は、その普遍性と象徴性にあると考えられます。以下にその生命力の源泉を説明します。

1. 普遍的な真理を含む
2. 簡潔で記憶に残りやすい
3. 文化的アイデンティティの一部
4. 時代に応じた再解釈
5. 教育的価値
6. 物語性や感情的なインパクト

つまり、ことわざの生命力は、人間の根本的な心理や価値観に深く根ざしながら、時代や文脈に応じて再生産される柔軟性にあります。使用頻度は低いかもしれませんが、その存在は文化の中で静かに息づき、必要なときにふと引用されることで、その価値が再確認されています。

【Chat GPT の回答②】（一部抜粋）

ことわざの「鮮度」を保つためには、その意味や価値が現代人にとって関連性のある形で理解・使用されることが重要です。以下に、ことわざの鮮度が保たれる要因を挙げて説明します。

1. 現代的な文脈での再解釈
2. 言葉遊びや創作を通じた新鮮さの注入
3. 教育やメディアでの活用
4. ことわざのグローバル化
5. SNS やデジタル文化との融合
6. 普遍的な価値の再認識

ことわざの鮮度は、時代や状況に応じた再解釈、言葉遊び、メディアや教育での活用、SNS などの新しい文化との融合によって保たれています。そして何よりも、その普遍的

な価値や象徴性が、現代人にとっても「使える知恵」として通用するため、鮮度が失われることはありません。

【Taylor（2012）】（邦訳から引用）

make hay while the sun shines「やれるうちにやっておく（←太陽が照っている間に干し草を作る）」という表現を考えてみよう。この格言は、農業の情景を喚起し、本格的に冬になる前に秋の好天を利用して仕事をしておくように助言する表現として、英語話者の大多数にはおそらくおなじみであろう。この情景がより一般的な状況の象徴として解釈されて、好都合な条件が続いているうちにそれを利用すべきだ、という教訓が読み取られるのである。（中略）興味深いことに、この格言にそのままの形で遭遇することはめったにない（BNC には実例は 4 つしかない）。大多数の場合、話者はこの格言に間接的に言及するだけである（Barlow 2000）。政治評論家であれば野党に make hay while the government suffers embarrassments「政府が体面を失っている間に何か手を打つ」よう促すことがあるかもしれないし、企業なら make hay while their competitors are embroiled in strife「ライバル企業同士の不和という好機を逃さない」ことがありうる。要するに、問題の格言から〈状況が許す間に自らの立場をできるだけよくする〉ことを指す（to）make hay という新しい言い回しが生じているのである。

【宇野（2021）】

認知言語学は人間の心が持つ、複雑さや過剰性を切り捨てずに、むしろそれを抱え込んで言語理論をつくろうとした。（中略）この言語理論が意味と人間を取り込むことで、言語を保つ仕組みと、言語を壊す仕組みの両方を捉えようとしている点である。

参考文献：

宇野良子(2021)「認知言語学から考える言葉の生命性」『認知科学』第 28 巻第 2 号. pp. 242-248.

Taylor John (2012) *The Mental Corpus: How Language Is Represented in the Mind*. Oxford University Press.

ことわざ誕生の要因と背景－仏教説話集を資料として－

玉村禎郎

はじめに. 個々のことわざ誕生の要因はさまざまであるが、ここでは仏教説話集である『今昔物語集』を主な資料として、そこに見られることわざの誕生の要因と背景について考察する。

本論.

1 転んでもただは起き・ぬ／ない

①ころんでも土をつかむこけてもただは起ぬ （『諺苑』1797）

②此方は勤めの身、転んで只は起きぬといふ目当を付けて金満の客を引掛け三味線の

（歌舞伎「恋闇鵜飼燎」1886 五幕）

③それア己は遣る。必然やって見せる。転んでも唯は起きねえ （徳田秋声『新世帯』1908）

④転んでも徒手は起きぬ（『日本俚諺大全』1906～08）

⑤悪魔は、ころんでも、ただは起きない。誘惑に勝ったと思ふ時にも、人間は存外、負けてゐる事がありはしないだらうか （芥川龍之介『煙草と悪魔』1916）

1' 転んでも土を摑む

⑥郎等共、「現ニ御損ニ候」ナド云テ、基ノ時ニゾ集テ散ト咲ヒニケリ。

守、「僻事ナ不云ソ、汝等ヨ。寶ノ山ニ入テ、手ヲ空クシテ返タラム心地ゾスル。『受領ハ倒ル所ニ土ヲ摑メ』トコソ云ヘ」ト云ヘバ、長立タル御目代、心ノ内ニハ「極ク憎シ」ト思ヘドモ、「現ニ然カ候フ事也。手便ニ候ハム物ヲバ、何カ取セ不給ハザラム。誰ニ候フトモ、不取デ可候キニ非ズ。本ヨリ御心賢ク御マス人ハ、此ル不死キ極ニモ、御心ヲ不騒サズシテ、万ノ事ヲ皆只ナル時ノ如ク、用ヒ仕ハセ給フ事ニ候ヘバ、不騒サジシテ、此ク取ラセ給ヒタル也。（『今昔物語集』28・38　1120 頃）

⑦こけても土をつかみ （『世話詞渡世雀』上 1753）

⑧ころんでも土をつかむ （『諺苑』1797）

2　こうべを傾ける

1　頭を前にさげる。考えこんだり、思案したりするさま。

⑨間依二小橋一立、傾レ頭時一唫　（白居易「早行林下詩」）

2　頭を前に垂れる。神仏を拝むさま。転じて、深く信仰するさまや心から感謝するさま。

⑩其ノ時ニ、大王首（カウベ）ヲ傾（*）ケテ羅漢（ラカン）ヲ礼拝（ライハイ）シテ喜ビ給フ事无限（カギリナ）シ。　（『今昔物語集』4・4）

⑪王、此レヲ聞（キキ）給テ憂（ウレヘ）ノ中ニ喜ビ給フ事无限（カギリナ）シ。太子、王ニ向（ムカヒ）テ首（カウベ）ヲ傾（カタブケ）テ礼（ライ）シ給フ。王、此ヲ抱（イダキ）テ座セシメ給フ。太子、座ニ居テ王ニ申（マウシ）テ宣（ノタマ）ハク、「恩愛ハ必ズ別離有リ。唯（タダ）シ願（ネガハク）ハ我ガ出家（シユツケ）・學道（ガクダウ）ヲ聴（ユル）シ給へ。一切衆生（イツサイシユジヤウ）ノ愛別離苦ヲ皆解脱（ゲダツ）セシメムカ（*）」ト。

（『今昔物語集』1・4）

⑫義仲為二其後胤一、傾（かうへヲカタフケテ）レ首　歳久（『屋代本平家』七・木曽於垣生若宮願書事　13C前）

⑬即是嵯峨の釈迦如来也。〈略〉道俗貴賤、首（カウベ）を傾（カタムケ）踵（くびす）をつぐ事今に絶えず

（『金刀比羅本保元』中・左府御最後　1220頃）

3　⑭初メ有ル者、必（カナラズ）、終（ヲハリ）有リ、生（シヤウ）ズルハ死（シ）ス。此レ、人ノ常ノ道也。（『今昔物語集』11・1）

4　⑮此（カク）テヤ弓箭（キウセン）ヲ捧（*ササゲ）テ、月見（アル）行ク　（『今昔物語集』28・42）

まとめ．仏教説話集である『今昔物語集』には、ことわざの萌芽と見られるものや初出例と見られるものがある。それらは教訓を身近な例に喩えることで理解を容易にする働きをしていると考えられる。

主な参考文献　（詳細は発表時に）

北村孝一編（2012）『故事俗信ことわざ辞典』小学館

玉村禎郎（2024）「諺の継承と変容」（近代語学会『近代語研究』第24集　武蔵野書院）ほか

ことわざの用法を分類する　――内容と形式に着目して――

大島中正（同志社女子大学）

1　はじめに

ことわざに関する情報総覧というべき辞書類（WEB 上のものもふくむ）には、①個々のことわざの意味、②用例（作例・実例)、③関連することわざ、④由来のほかに、次の⑤～⑧のような情報がもとめられるであろう。

⑤　文（＝センテンス）中での形式と機能。
⑥　文章・談話の中での位置と機能。
⑦使用に際して注意すべき事項（たとえば、いつ・だれが・だれに・どんな意図で使用するのが適切かといった事項)。
⑧1 次的用法・2 次的用法のそれぞれについての⑤⑥⑦の記述。

2　1 次的用法（タイプ A）

1 次的用法（タイプ A）

ことわざの用法は、「上手の手から水が漏れるとは、このことだ」のような「評価的論評」としての用法と「石の上にも三年というから、あきらめるのはまだ早い」のような「評価的論拠」としての用法とに分類する学説がある[i]。これらが 1 次的、本来的、基本的用法であろう。

実例 1　山田真哉「毎日 10 円単位で節約することが大切なんだ。チリも積もれば山となるというだろう。」山田真哉（2005：41)『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』光文社新書

3　2 次的用法

しかし、ことわざには、別種の用法が散見される。それは、使用者が、ことわざの有する説得力や簡潔性をささえとして、自己の主張などを説得力あるものにするために利用する用法である。この種の用法を 2 次的用法と仮称する。

3－1　内容変えず形式変えず（タイプ B）

実例 2　「ウタ（歌）をつくるよりタ（田）をつくれ」ということわざがあるが、それがしめすように、知的活動よりも、肉体的活動による物質やエネルギーの直接的な生産の方が重要であったのだ。梅棹忠夫（1969：12)『知的生産の技術』岩波新書

実例 3　最も内なる意は、案外正直に、最も外なる態度に表われる。それを昔の人は

「目は口ほどに物を言い」と言った。林四郎（1974：345）『言語表現の構造』

３－２　内容変えず形式変える（タイプ C）

実例４　襄より始めよ（『新島襄全集１』：108）（←隗より始めよ）

実例５　立つ男、後を汚さず（阿蘇市の公衆トイレの貼紙）←立つ鳥跡を濁さず

実例６　論より面接（『精神科学治療学』37－7）←論より証拠

実例７　山は富士　酒は白雪（小西酒造のコマーシャルソング）←山は富士　人は武士

実例８「能ある女（タカ）が爪をかくさねばならなかったわけ」←外山滋比古（1982：258）『男の神話学』中公文庫

3－３　内容変える形式かえず（タイプＤ：創造的誤用・意図的誤用）

実例９　「光陰矢のごとし」というが、この諺は時の流れの早さというよりも、現在という矢が永劫の空間を宇宙船のようにとどまることなく走っている様を思わせる。（小泉保（1984：136）『教養のための言語学コース』大修館書店）

実例 10「貧すれば鈍する　業績が悪いと思い切った投資ができなくなるので、どうしても世間のスピードから取り残されてしまう。（山田真哉 2005：41）『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』光文社新書

３－３　内容変える形式変える（タイプ E）

実例 11　チリが積もっても山にはならない（中略）節約した気になっているだけで会計を見ていないのである。山田真哉（2005：42）『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』光文社新書

実例 12　「木を見て森を見ず」ならぬ、「木を見て森を推測する」といった感じだろうか。監査用語ではこれをリスクアプローチと呼んでいる。山田真哉（2005：150－151）『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』　光文社新書

４　おわりに

ことわざの用法の全容を解明するには、1 次的用法はもとより、2 次的用法の実例収集を継続し、その分類基準についても更なる検討が必要である。たとえば、さらには他言語との比較対照という課題もある。

参考文献

泉　文明 1993「二重表記の現在―短歌・俳句の表記の調査―」『日本語学』12－3　明治書院

大島中正 22021「「ことわざはどのように使用されているか―2 次的用法を中心にー」『ことわざフォーラム 2021』ことわざ学会

佐竹秀雄 2009「日本語学とことわざ研究」『国文学解釈と鑑賞』　74－12　至文堂

武田勝昭 1992「第二章ことわざの用法」『ことわざのレトリック』　海鳴社

多門靖容器 2005「23　ことわざ・慣用句」『ケーススタディ　日本語の表現』おうふう

『語法会話朝鮮語大成』のことわざについて

鄭 芝淑（ちょん・じすく）

朝鮮総督府が朝鮮普通学校において朝鮮語を正課としたため、これを担当する日本人教員を養成する必要が生じた。日本人教員向けの朝鮮語講習会が実施され、その教材として、総督府は『朝鮮語法及会話書』を編纂した。『朝鮮語法及会話書』は総督府編纂となっているが、実質的には講習会の講師の一人であった奥山仙三（1889～？）によって編纂された。

奥山は、普通学校教員講習会や京城医学専門学校、京城高等商業学校での朝鮮語教育を通じて、『朝鮮語法及会話書』の修正・改訂を重ねた。これらをさらに修正して、自分の編著として刊行したものが『語法会話朝鮮語大成』（朝鮮教育会、1928 年、および日韓書房、1929 年）である。その一節が「俚諺」に充てられ、朝鮮のことわざ 41 件を挙げている。

『語法会話朝鮮語大成』のことわざ（41件）

NO.	朝鮮語	日本語訳
1	열길 물속은 알아도 한길사람의 속은 모른다	十尋（ひろ）の水の底は分つても、一尋（ひろ）の人の心は分からぬ
2	구슬이 세말이라도 꿰어야 보배지	珠が三斗あつても、絲を通してこそ寶となる
3	공든 탑이 무너지랴	念入れて造つた塔は倒れず
4	물이 가야 배가 오지	水流れてこそ、舟も通へ
5	부뚜막에 소금도 집어 넣어야 짜다	竈（かまど）のすぐ上にある鹽も、とつて釜に入れなけりゃ鹽気が出ぬ
6	급하면 바늘허리 매여쓰나	急ぐからと云つて、針の真中に絲を結び付けて縫へるか
7	콩 심은 데에 콩 나고 팥 심은 데 팥 난다	大豆を播いた所に大豆が出来、小豆を播いた所に小豆が出来る
8	범에게 물려가도 정신만 차려라	虎に啣えられて行きながら、気だけは確かに持て
9	잠을 자야 꿈을 꾸지	寝れやこそ、夢を見る
10	때지 않은 굴뚝에 연기날까	焚かない煙突に、煙が出るか
11	우물 파도 한 우물 파라	井戸を掘るにも、一つ井戸を掘れ
12	팥으로 메주를 쑨다해도 곧이 듣는다	小豆で、醤油＊の原料（もと）を造ると云つても、信用（ほんと）にする
13	개새끼도 주인을 보면 꼬리를 친다	犬の子も主人を見ると、尾を振る
14	말 잃고 외양간 고친다	馬を失つて、廐を修繕する
15	모난 돌이 정 맞는다	角（かど）ある石は、鑿で打たれる
16	벼슬은 높아가고 뜻은 낮아가라	官は高かれ、志は低かれ
17	양주 싸움은 칼로 물베기다	夫婦喧嘩は、庖丁で水を切るよう（すぐ直る）
18	백지장도 맞들어야 나으리라	白紙も二人で擧ぐれば、猶軽い

NO.	朝鮮語	日本語訳
19	굳은 땅에 물 괸다	地堅ければ、水溜る
20	아는 길도 물어가라	知つてる道も、聞いて往け
21	우이송경	牛の耳に経を讀む（馬も耳に念佛）
22	시작이 반이다	始めれば半分出来たも同じ
23	방안에서 큰말한다	部屋の中で大きな言（こと）を云う（蔭辨慶）
24	음지도 양지 된다	日蔭も日向ひになる
25	닫는 말에 채질한다(주마가편)	走る馬にも鞭を加ふ
26	언발에 오줌 누기	凍つた足に小便（姑息の處置）
27	고래싸움에 새우등 터진다	鯨の喧嘩に、海老の背が裂ける（側杖）
28	소경이 개천만 나무란다	盲目（めくら）が溝（みぞ）を叱る
29	자는 범의 코를 찌르기	眠（ね）て居る虎の鼻を突つつく
30	중이 제 머리 못 깎는다	坊主が自分の頭を剃れない
31	뻗어가는 칡도 한이 있지	伸びて行く蔓も限りあり
32	내칼도 남의 칼집에 넣으면 빼기 어렵다	我が劒も、他人（ひと）の鞘に挿せば抜き難（にく）い
33	울며 겨자 먹기	泣きながら、芥子（からし）を食ふ
34	지렁이도 디디면 꿈적거린다	蚯蚓も踏めば蠢く
35	남의 떡으로 설 지낸다	他人の餅で、正月をする
36	손톱에 든 가시는 알아도 염통에 쉬스는 줄은 모른다	爪に立つた莉（とげ）の痛みは感じても、心臓に湧く蛆は分らぬ
37	어린아이 말도 귀 담아 들어라	幼い子の言葉も、耳傾けて聞け
38	세살 적 버릇이 여든까지 간다	三歳の癖八十まで残る
39	하룻강아지 범 무서운 줄 모른다	生まれたての子犬は、虎の恐しさを知らぬ
40	개꼬리 삼년에 황모 못된다	犬の尾は三年経（た）つても、鼬の尾にならぬ
41	솔개도 오래면 꿩을 잡는다고	鳶も年を経れば雉を捕るとか

『語法会話朝鮮語大成』は、ただこのリストを掲げているだけで、その選択の経緯や、掲載の目的などについては何も述べていない。

発表では、このリストと、高橋亨（1910）『朝鮮の物語集附俚諺』、高橋亨（1914）『朝鮮の俚諺集附物語』、朝鮮総督府（1926）『朝鮮俚諺集』など当時知られていたことわざ集や現代のことわざリストと比較しながら、どのようなことわざが選ばれているか、その輪郭を考察する。

備えあれば憂いなし：ことわざを通して意識づける災害時の命を守る知恵

北澤篤史

0 趣旨

災害から命を守るためには、日頃の「備え」が欠かせない。私は消防士として 7 年間の経験を積んだ後、防災士として「住所検索ハザードマップ」という防災サイトを運営し、災害への備えや対策の重要性を伝えている。その中で、事前の「備え」がいかに命を左右するかを強く感じてきた。「備え」は千差万別だ。住環境や家族構成、健康状態、性別、ペットの有無などにより、最適な準備や対策は大きく変わる。

本発表では、「備えあれば憂いなし」ということわざを軸に、元消防士としての経験を交え、災害時に役立つ具体的な防災対策について考察する。

1 安全区域の”備え”：「命あっての物種」安全区域を必ず設定しよう

建物の耐震性は、災害時に命を守る上で最重要ポイントだ。特に 1981 年に施行された新耐震基準以前に建てられた建物は、強い地震で倒壊する可能性が高く、大地震が発生すれば命を危険にさらすことになる。地震の際に「机の下に隠れろ」とよく言われるが、倒壊の恐れがある古い木造建築に住んでいる場合、机の下に隠れても建物ごと潰れたら机も潰れて助からないだろう。地震発生時には建物の外に出る選択肢も考えられるが、緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は極めて短く、現実には難しい。

現状の対策としては、最低限寝室だけでも補強工事し、安全区域を確保するのが有効だ。自治体で補助金制度もあるため、是非確認して欲しい。

2 揺れている時の”備え”：「袋の鼠」は命取りになる

地震の際にはエレベーターやトイレなどでの閉じ込め事案が頻発する。トイレは家具がなく空間も狭いため、柱や壁が短く比較的頑丈なことから、一見すると揺れた時の”安全区域”として考えられがちだが、トイレの扉は絶対に閉めてはいけない。地震によってドアが歪むと出られなくなる可能性があるためだ。さらに、津波や火災が発生した場合、閉じ込められると逃げ場を失い命取りになる。エレベーターに乗っている時は、基本的には一定以上の揺れを感じると自動的に最寄り階で停止するよう設計されているが、安全のためにもすべての階のボタンを押し、最初に停止した階で速やかに降りるようにしよう。

3 初期消火の”備え”：「火は火元から騒ぎ出す」炎の上部では火は消えない

火災が発生した場合、初期消火が被害を最小限に抑えるための鍵となる。消火器の使用時には火元を直接狙い、炎の先端ではなく火元に向けて消火剤を噴射する。こうすることで、火元と酸素の供給を断つことができる。消火器のホース先端をほうきで掃くように動かし、火元を覆うようにして消火剤を散布するのが効果的だ。

また、屋内消火栓は一見すると難しそうな設備だが、消防隊員ではない一般の方でも使用できる強力な消火設備だ。いざという時に備えて、防災センターなどで使用方法を学んでおこう。

4 心構えとしての”備え”：「火を見たら火事と思え」初動が何より大切

災害時には、人間の心理が避難行動に大きな影響を与える。特に「正常性バイアス」と「同調性バイアス」は災害時の典型的な心理反応だ。正常性バイアスは、異常な状況を「大したことはない」と過小評価してしまう心理で、避難の遅れにつながる。同調性バイアスは、周囲と同じ行動を取ろうとする心理で、集団心理に流されて避難が遅れる原因となる。

イギリスの心理学者ジョン・リーチの研究によると、災害時に冷静に行動できる人は 10〜15%、パニックに陥る人は 15%、そして何もできず呆然としてしまう人が 70〜75%を占めるという。パニックに陥る人の割合は少ないように見えるが、実際には多くの人が「正常性バイアス」や「同調性バイアス」によって初動が遅れ、結果的にパニックに陥るケースが多い。

私自身、消防士として現場に出動する中で、こうしたパニックの場面に何度も直面してきた。ある火災現場では、居住者が煙や炎に迫られてパニックに陥り、自宅玄関の鍵を開けられず、命を落としたケースがあった。災害が起きたその瞬間「災害心理を知っているかどうか」が生死を分けるのだ。「初動」が遅れたら助かる命も助からない。

5 自分の命は自分で守る”備え”:「人を見たら泥棒と思え」災害時は疑う心が大切

災害時に他人の意見を鵜呑みにするのは危険だ。多くの人は、ホテルや公共施設で火災が発生すれば、従業員が適切に誘導してくれると信じているだろう。しかし、実際にはそうとは限らない。実際に 1980 年の川治プリンスホテル火災では、避難誘導がなされず、戦後最大の 45 名の犠牲者を出している。

また、私が大学時代にホテルでアルバイトをしていた際、消防訓練には参加しておらず、避難誘導の方法も教わっていなかった。災害時には「自分の命は自分で守る」というマインドセットが大切だ。人は疑ってかかるくらいがちょうど良い。

6 自分の目で確認する”備え”:「百聞は一見にしかず」非常口を実際に開けよう

宿泊施設で避難ルートを確認する人は多いが、元消防士の視点から見ると、単なる確認だけでは不十分だ。実際にその避難ルートが機能しているか、自分の目で確認する必要がある。かつて、ある宿泊施設で非常口が開くかどうか試したところ、荷物置き場として使われており扉が開かなかった。スタッフに違反を指摘して荷物を移動してもらったが、こうした問題は消防時代の立入検査でも決して珍しくなかった。特に、若者の中には費用を抑えるため、ホテルの代わりに漫画喫茶や個室ビデオ店に宿泊する人もいるが、こうした施設では非常口が閉められているケースが多く、注意が必要だ。

災害時には、確認不足が命取りとなることもある。避難経路の確認に加え、非常口が実際に開くかどうかも必ず確認してほしい。

7 大切な人の命を守る”備え”:「後の祭」とならないための心肺蘇生法

災害時に大切な人の命を守るためには、心肺蘇生法（CPR）の習得が不可欠だ。総務省消防庁によると、令和 4 年中の救急車が到着するまでの全国平均は約 10.3 分だ。心停止から 1 分ごとに、救命率は 7〜10%下がるため、救急隊が到着するまで何もしなければ生存率は限りなく 0%に近くなる。特に災害時は道路が寸断されて救急車はこれない可能性もあるため、”バイスタンダー”が心肺蘇生を施すことが命を救う鍵となる。

また、大規模自然災害の際には地震などの強いストレスから急性心筋梗塞が増加することが知られている。急性心筋梗塞などによる心停止後には、「死戦期呼吸」という現象が高頻度で見られる。これは血液中に残る酸素の影響であえぐような呼吸に見えるが、実際には有効な呼吸ではなく、放置すると救命の機会を逃してしまう。普段から自宅近くの AED の位置を把握し、心肺蘇生の知識や手順を理解しておくことが重要だ。「後の祭」とならないために、訓練を重ねておくことが、家族や周囲の命を守るための大切な備えとなる。

ワークショップ 〈ミニマムで学ぶ〉世界のことわざ

〈ミニマムで学ぶ〉ことわざシリーズ全６巻（クレス出版）が７年の歳月をかけて完結しました。著者（いずれも学会会員）、ネイティブの協力者、版元など、関係者の皆様のご尽力に感謝するとともに、これを機にこのシリーズのめざしたものをあらためて振り返り、その成果と今後の課題について考えるためのワークショップを試みます。

具体的には、その糸口として各巻の著者にからお寄せいただいた原稿――内容は報告内容の予告、エッセイ、回想など、さまざまです――をそのまま掲載いたします。

スペインのことわざを、スペイン語で読む

星 野 弥 生

音で表現するとか、声を出すこととは無縁な生活を送っている、カラオケも嫌い、という私ですが、このところ「音」の世界にちょっとだけ足をつっこんでいます。茨木のり子の詩を読む会で好きな詩を選び朗読してみたり、昨年のことわざフォーラムでは「浮世風呂」を読んでみたり、縁あってそんな機会が訪れ、とまどいながらも声を出すのもいいなあ、と思っています。

ことわざは人から人へ、口を通して伝えられたもの。スペイン語のそれは、韻を踏むことで覚えやすく、リズムに乗り歌のようになっていきました。ならば今度はスペイン語でことわざを読むというのは当然のなりゆきなのでは、と思えてきます。歌うように読めるかどうか、まったく自信はありませんが、ことわざの背景にあるスペインの田舎の変わらぬ風景、大好きなスペインの人たちの表情を思い浮かべながら、ことわざという宝物のおすそ分けができたら、と願っています。

ミニマムで学ぶ韓国語のことわざ

鄭 芝 淑

ことわざミニマムと考えられるものは、それぞれの言語社会における「文化リテラシー」の一環として位置づけられるものである。そのため、言語教育、特に外国語教育における応用の観点からも重要な意味を持つ。『ミニマムで学ぶ韓国語のことわざ』に挙げた 100 件のことわざは、いずれもその条件を満たすものである。

ことわざの背景にある言語文化の諸相には、特定言語に特異なものと言語普遍的なものがある。ワークショップでは、『ミニマムで学ぶ 韓国語のことわざ』で紹介したことわざの中から、韓国の言語文化や世界観の特異性（と言っても日本語との比較にすぎないが）を強く反映していると思われることわざをいくつか取り上げて、紹介する予定である。実際、ことわざがどのように使われているのか会話例を挙げながら説明した後に、音声としての韓国語のことわざが持つ響きを鑑賞していただきたい。

『魔道祖師』のことわざと『ミニマムで学ぶ中国語のことわざ』

千野明日香

今年上海に旅行して、あちらの蔦屋に行きました。そのとき会った児童書担当の書店員さんが、昨今の小学生は字を覚えると児童書ではなく、一足飛びにオンライン小説に行ってしまうと嘆いていました。そういえば日本で人気のある墨香銅臭作『魔道祖師』もオンライン小説です。2015 年から 16 年にかけて中国のオンライン・サイト「晋江文学城」で連載、書籍化された後、ラジオドラマ、アニ

メ、実写ドラマにもなりました。来年には日本で舞台化されるそうです。

『魔道祖師』はファンタジーBL 時代小説ですが、読者層が若い人たちであることを考えると、現代の言葉の感覚を反映しているといえると思います。こういう小説の中ではどのようなことわざが使われているでしょうか。また、それらは『ミニマムで学ぶ中国語のことわざ』のことわざとどれぐらい重なるでしょうか。それとも重ならないでしょうか。そういったことをご紹介したいと思います。テキストは『魔道祖師』全 4 巻、平心工作室、2019 年 4 月版を用いました。

寄り添うことわざ

藤 村 美 織

ベルリンの壁解放 35 年、東京ベルリン友好都市提携 30 年、ドイツ統一後、ベルリンの壁に富士山を描いた画家、トーマスがこの記念行事の枠で 30 年ぶりに来日した。かつて私が携わっただけでも、新潟（壁画)、茨城（展覧会)、東京/島根（肖像画）のプロジェクトが展開した。来日レセプションの際、関係者のほぼ半数は他界していたが、半数は元気で再会を喜びあった。光の如し！ と同時に、10 年ひと昔の 3 倍は、やはり大きい。

彼のスピーチのなかで、最も印象的だったのは「急がば回れ」ということわざである。森鷗外の肖像画を完成したとき、鷗外の子孫の一人が和紙に墨で書いてくれたという。何と粋な贈り物だろう。ベルリンのアトリエに飾られ、長年、彼を支えることになった。日本語のことわざミニマムに入るべき、この簡潔な言葉が美しい書のかたちでドイツ人に寄り添い、力を与えたのだ。今回、来日を果たした喜びのなかで、ことわざとして見事に輝いていた。

ミニマムの回顧と今後の展望

北 村 孝 一

「ミニマム」を意識したのはいつ頃だったか、はっきり覚えていないが、30 年余り前のことだろう。最初はペルミャコーフの論文を英訳で読み、その後ロシア語の原文も参照した。外国語を学ぶときに初等文法と基礎語彙の習得した後にミニマムのことわざがあり、異文化のリテラシーに重要な役割を果たしているという考え方に共感した。

当初は、ことわざを研究する上で大いに参考になると思い、特に日本のことわざのミニマム選定が念頭にあったが、予備調査に少し手をつけただけで中断してしまった。その後、武田勝昭氏と『英語常用ことわざ辞典』を執筆し、『故事俗信ことわざ大辞典』第 2 版の編纂にかかわるうちに、徐々に〈ミニマムで学ぶ〉シリーズの構想が浮かび、異文化のリテラシーを身につけるツールとして可能性を追求してみた。その裏には、執筆者との交流と協同があった。

幸い編集者の賛同も得て企画が進行し、コロナ禍もあって刊行には 7 年かかったが、何とか完結できた。とはいえ、シリーズは刊行して終りではない。活用のためには出版以外のメディアを含めたフォローが必要であり、今後の課題（音声面や他の言語への応用など）にも積極的に取り組んでいきたいとあらためて考えている。

参考文献

鄭芝淑･飯田秀敏「ことわざミニマムとことわざスペクトル」(『言語文化論集』29 (1), 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 2007 年)

武田勝昭「書評・ミニマムで学ぶ〈ことわざ〉シリーズ　際立つ各言語の〈ことわざ〉の個性」(「たとえ艸」86 号、2017 年 8 月)

鈴木雅子「外国語学習者の“文化リテラシー”」(『IDUN －北欧研究－』23 , 2019 年)

温暖化で変わる暮らしと天気のことわざ

気象予報士　村 山 貢 司

2024 年は記録的な暑さになりました。2023 年に続いての猛暑は温暖化の影響が 100 年後のことではなく、すでに気候が大きく変動していることを示しています。今年の秋の彼岸の入りの日の最高気温は 33.9 度で、「暑さ寒さも彼岸まで」という昔からの言葉は死語になってしまいました。気象用語は最高気温が 25 度以上の日を夏日、30 度以上を真夏日、35 度以上を猛暑日と呼んでいます。また、最低気温が 25 度以上の日を熱帯夜と呼びます。2024 年は夏日が 151 日で年間の 5 か月が夏でした。真夏日は 82 日、猛暑日は 20 日、熱帯夜は 47 日もありました。

過去に東京の最高気温が最も高くなった日は 2004 年 7 月 20 日の 39.5 度ですが、最低気温の高い記録は 2013 年 8 月 11 日で 30.4 度、それも夕方前の時間でした。つまり 24 時間気温が 30 度以上で、NHK のラジオ体操が始まる 06 時 30 分の気温は 31.6 度でした。熱中症が多くなる気温が 32 度前後なので、体操をやること自体が危険な状態でした。昔から「朝の涼しいうちに夏休み宿題をやりなさい」と親から言われるのが当たり前でしたが、現在の日本の夏はその涼しい時間帯がなくなっているのです。

天気に関することわざはいくつもありますが、基本的には天気が西から変わることが前提になっています。「夕焼けは晴れ、朝焼けは雨」がよく知られています。夕焼けは西の空が赤く染まる現象で西に沈んだ太陽の光が届いている、すなわち西の方に雲が少ないことから晴れが予想できるわけです。このことわざは世界中で通用するわけではありません。「天気が西から変わる」という言葉は正確に言うと「日本付近では天気が西から変わることが多い」になります。日本の上空には偏西風（ジェット気流）があり、低気圧や高気圧はこの偏西風よって西から東に移動することが多いのです。南から天気が変化するのは台風です。この偏西風は北半球では北緯 30 度から 60 度くらいの範囲で吹いているもので、赤道に近い地域では貿易風（偏東風）と呼ばれる東風が吹いている。赤道をはさんだ地域では天気は東から西に変化することが多い。この地域では「夕焼けは雨、朝焼けは晴れ」と正反対のことわざになる。

雨に関することわざも変化するだろう。雨のことわざには「朝の雨は女の腕まくり」というのがある。女性が怒って腕まくりをしてもたいしたことはないように、朝に降っている雨はすぐに止むまたはたいしたことがないという意味である。近年は雨の時間帯に関係なく

大雨になることが多く、ことわざ自体も女性蔑視的な表現なので使われることは稀になってきた。朝の雷はということわざになると朝の雨とは真逆な意味になる。江戸時代からのことわざでは「朝の雷河を渡るな」とある。雷といえば夕立を思い浮かべるが、夕立は 1 時間程度で終わるのが普通である。これに対して朝の雷は近くで激しい雷雨になっていることが多く、川がいっきに増水する危険があることが知られていたのであろう。現代風に言えばゲリラ豪雨や集中豪雨である。集中豪雨という言葉は 1953 年に京都府南部で発生した局地的な大雨に対して朝日新聞が作った造語であり、ゲリラ豪雨は 2008 年に集中豪雨が日本の各地で同時多発したことから使われるようになった。最近使われる線状降水帯はゲリラ豪雨が直線的に並んでいる状態と考えればよい。「朝の雷河を渡るな」を現代風に変えれば「朝や深夜に雷があれば、避難の準備」になり、「雷 1 時間、すぐに避難」になる。

雨を予想することわざに「飛行機雲が消えない時は雨」や「遠くの音がよく聞こえる時は雨」がある。上空の空気が乾燥していれば飛行機雲はすぐに蒸発して消えてしまうが低気圧が接近すると空気が湿ってくるために雲が消えにくくなる。音は気温の高いところから低い方へ屈折しながら伝わるが、低気圧が近づくと上空に温かい空気が入るために音が下向きになり遠くの音が聞こえるようになる。

発達した雨雲や線状降水帯は気象庁のレーダーで見ることができるが、温暖化の進行によって突然頭の上で雷雲が発達する現象も起きている。気象庁の予測では 2000 年に比較して 2100 年には日本の気温はおよそ 4.5 度上昇する見込みである。これは気象的には日本列島が南におよそ 500km 移動することになる。東京は八丈島の南 200km の位置に移動する。現在の暮らしも気象に関することわざも大きく変化する可能性が高い。「小さい子供や高齢者は夏には外に出ない」、「夏の野外作業は禁止」、「低い土地には住まない」など。

洪水常襲地における防災の知恵

――ことわざにも新人時代――

尾﨑 光弘

はじめに

災害や水害に関する諺にはどんなものがあるか調べてみた。ともに災害や水害の予兆を知らせる諺ばかりで、災害（水害）の直接体験から生まれたと思われるものが少なかった。そこで水害一本にしぼり水害体験記を読むことにした。収穫はあった。水害体験における記憶術に気づかされたからである。

１．握津という堤外地にある洪水常襲地

水塚・屋敷森・水害船などの洪水対策にとどまらず、生業の農業生産物も洪水常襲地に適した作物の選択。そして何よりも頻繁にやって来る洪水の跡には栄養たっぷりな土が残った。握津の人々は評判の作物に誇りを持ちながらこの地で300年余りを生きてきた。この生き方にはスピリチュアリティが感じられる。

２．水害の記憶を読む

原資料(大久根論文)の記述を、場面（モノ）と記憶（避難行動）をハイフンで結びつけてみる。ここに記憶術が生まれる。が、諺と見做すにはまだ新人。一人前になるには言葉の彫琢が必要であった。しかしそんなゆとりがない。結果、洪水常襲地に諺が生まれ難かった、と言える。番号のあとの見出しは、一人前の諺になりたいと力んだあとの駄作。これから衆目の力が必要だ。

出水時の対応

① 荒川の増水を見極める

・荒川が増水を続ける - 人々はようすを見に川まで足を運ぶ

・河道から溢れた濁流 - 集落に押し寄せる

・田畑が冠水 - （まだ水塚には届かない）危機感はない

・続く増水 - 雨の降り方や雲の動きから流れを見極める

・水の勢いが衰えない - 手際よく避難の為の行動にとりかかる。

② 移動可能な生活道具の垂直避難

・炊事用具、生活用具から建具、農具 - 母屋の屋根裏・物置二階にあげる

・春から秋の間 - 畳を二階に挙げておく

・畳代わりのウスベリ - 片付けておく

・箪笥 - 引出しを抜き取って高所に移動。

③ 食料と水の用意は二日分

・飯炊き - 二日分ぐらい

・水 - 桶・鍋・バケツなどに入れて避難場所に置く

・炊事用に移動式の竈もある

④ 家畜と大型の農機具は近くの土手に水平避難

・家畜（牛やヤギ）と大型の農機具――水害船で近くの堤防へ避難

・鶏 - 自由にさせよ

⑤ 避難準備にかかる時間の変化が及ぼす影響

・蛇行河川 - 緩やかに増水

・直線河川 - 鉄砲水に近い増水――避難行動が間に合わず

⑥ 母屋の一階が空っぽ - 避難完了

⑦　避難場所は空っぽにしておけ

⑧　物置のない家の避難アップアップ

・母屋のみの家 - タナギと称する母屋の屋根裏に家族が避難

・昭和 16 年の大洪水 - タナギから手を伸ばせば水に触れた

・家族そろって水害船 - 流されないように柿の木に縛り付ける

洪水襲来時の過ごし方

⑨　人々は水が引くのを待つしかなかった

・ある程度減水するまで - 避難場所でじっとしていた

・上流から流れてくるいろいろなもの - 物置の二階からのんびりと眺めた

・水害船で堤防まで - イナゴ捕り

・普段の生活の延長線上で洪水に対応する

あと片づけの苦労

⑩　止まない洪水はない

・水塚上の屋敷地 - 一日で姿を現す

・田畑の冠水 - 三日間ほどで収まる

⑪　減水時は後片付けの絶好機会

・減水の始まり - 作業は山ほどあった。

・家の内外の柱や壁 - ごみ混じりのイゴミが付着

・減水しつつある泥水 - かき混ぜながら洗い流す

⑫　十分な乾燥なしに布団は敷けない

⑬　洪水後の井戸洗った上に水が澄むまで

⑭　流された屎尿の行方が気になる

全体をふりかえる

⑮　「(握津の人々は、・・・洪水は年中行事のように襲ってきていたから）常に洪水のことを頭に入れて生活していた」（大久根 茂)。――これに勝ることわざは今のところ見当たらない。

３．おわりに

水害体験記に見つけることになった記憶術の要諦は、場所や風物に記憶をひっかける点にある。柳田國男は諺の伝承と変遷を論じる中で、暗記術としての諺について「何か大事なことを忘れぬようにするには、毎日のように誰かがいっているのを聞くか、そうでなければ**何かにつけて思い出さずにはいられぬような、強い力のある言葉**でなければならなかったのです。それゆえに以前の年よりたちは、ぜひとも若い者に教えておきたいと思うことを、できるだけおもしろい文句にしました」（太字は引用者）と書いている。かつての握津の住民は、2005 年に周辺の堤内地への移動が完了。いま、気候変動によってでしょう。思いがけない時に思いがけない集中豪雨にあい、命まで奪われるような災害があたりまえに、言い換えれば年中行事のようになりつつあります。永い間、洪水常襲地で蓄積された記憶術がこれを迎える私たちの「備え」に何らかのヒントになれば、と思う。

参考文献　・大久根 茂「洪水への対応――川越市握津の場合」(『埼玉民俗』23 号 1998)

・村瀬　学「付論❶ 記憶術としてのことわざ」(『ことわざの力』洋泉社 1997)

・柳田國男「ことわざの話」(1930) (『なぞとことわざ』講談社学術文庫 1976)

寺田寅彦とその名言

永野恒雄

はじめに

1　寺田寅彦は物理学者か、随筆家か、それとも……

2　寺田寅彦を高く評価する人たち
小宮豊隆（1947）・外山滋比古（1980）・石井象二郎（1995）・浅見定雄（1995）・
紀田順一郎（1996）・出久根達郎（1996・1998）・藤代治康（1997）・
小熊英二（1998）・中野　翠（2002）

3　寺田寅彦の名エッセイ
「団栗」（1905）・「相撲と力学」（1908）・「田園雑感」（1921）・「笑」（1922）・
「茶碗の湯」（1922）・「科学者とあたま」（1933）・「海水浴」（1935）

4　寺田寅彦の名言
「宇宙の秘密が知りたくなった、と思うと、いつのまにか自分の手は一塊の土くれをつかんでいた」柿の種
「田舎の生活を避けたい第一の理由は、田舎の人のあまりに親切なことである」田園雑感
「戦争の惨劇が頂点に達した時に突然笑に襲われる」笑
「物理学は結局世界中にどれだけ分らない事があるかを学ぶ学問である」茶碗の湯
「科学者はあたまが悪くなくてはいけない」科学者とあたま
「天災ばかりは科学の力でもその襲来を中止させる訳にはいかない」天災と国防
「ある問題に対してドーデモイイという解決法のある事に気のつかぬ人がある」？
「客観のコーヒー主観の新酒哉」俳句

5　「天災は忘れたころにやって来る」論
・普及のキッカケは？
・そのバリエーション
・出典は『天災と国防』（岩波新書）か？
・なぜ、「天災は忘れたころにやって来る」という形で定着したのか

むすび

Ag 24 I 1998

スポーツひろい読み

出久根達郎

相撲の力学

そうだ。

寅彦いわく、およそ世の中に、つまらないものはない。「一つの石ころにも世界が含まれている」それが見えないのは、見たくない人だからだ。

こんなことも言っている。若返りの妙薬。スポーツ選手の活躍する映画をみよ。「いじけた年寄気分がどこかへ吹飛んでしまって、たとえ一時でも若返った気分になる」

「相撲と力学」なる題の文章も書いている。人間の五体、特に手足は力学的に見れば、複雑な梃子（てこ）の組み合わせであって、適当な支点を与えれば、アブの力で象もころがる。梃子の原理の応用が四十八手のわざだから、これを分析すれば、「例えば体量の少ない力士が大きい敵手にぶつかる場合には速度の大小でどれだけの効果があるかという事あるいは敵の運動量を利用して強敵を倒す事など物好きな学者の研究によって明らかになりそうな事である」（明治四十一年）

寅彦も「物好きな学者」の一人のはずだが、残念ながら四十八手の力学は解明していない。

寅彦の言葉。「ある問題に対して『ドーデモイイ』という解決法のある事に気の付かぬ人がある」

「自分の持っている定規に合うように人を強いる事を親切と心得ている人がある。こういう人の定規は不思議に曲っているのが多い」

（古書店主・作家）

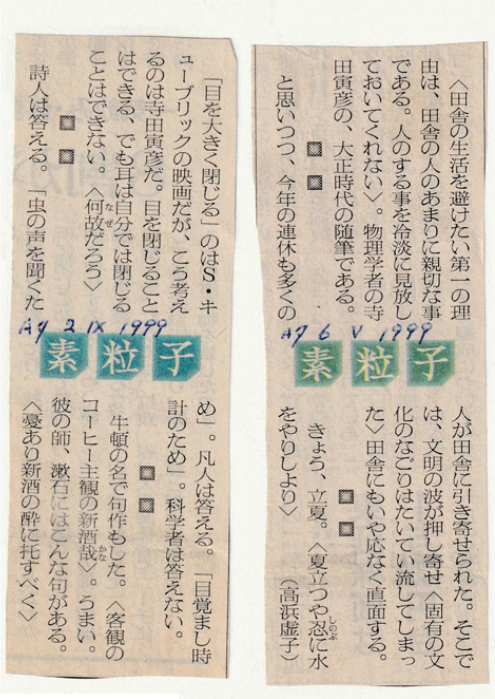
そうだろうが、この人ほど好奇心の旺盛（おうせい）な方は珍しい。猫のしっぽの動く意味を考察し、漫画や映画を論じ、すき焼きの語源を探り、タヌキの腹つづみを物理学的に説明する。

サイコロを振って、どの数が一番出るか実験し、イカサマバクチのしかけを明かす。ちなみに、2が一番よく出て、少ないのが6だ

物理学者の寺田寅彦は、その名の如く寅年の生まれである。

科学者は皆

「南窓や梅一輪の初日影」寅日子（とらひこ）



Ag 6 V 1999

素粒子

〈田舎の生活を避けたい第一の理由は、田舎の人のあまりに親切な事である。人のする事を冷淡に見放してておいてくれない〉。物理学者の寺田寅彦の、大正時代の随筆である。

■ ■

と思いつつ、今年の連休も多くの人が田舎に引き寄せられた。そこでは、文明の波が押し寄せ〈固有の文化のなごりはたいてい流してしまった〉田舎にもいや応なく直面する。

■ ■

きょう、立夏。〈夏立つや忍に水をやりしより〉（高浜虚子）

Ag 2 IX 1999

素粒子

「目を大きく閉じる」のはS・キューブリックの映画だが、こう考えるのは寺田寅彦だ。目を閉じることはできる、でも耳は自分では閉じることはできない。〈何故だろう〉

■ ■

詩人は答える。「虫の声を聞くため」。凡人は答える。「目覚まし時計のため」。科学者は答えない。

■ ■

牛頓の名で句作もした。〈客観のコーヒー主観の新酒哉〉。うまい。彼の師、漱石にはこんな句がある。〈憂あり新酒の酔に托すべく〉

牧野富太郎筆による寺田寅彦記念館石垣の石碑「天災は忘れられたる頃来る」

災害伝承としてのことわざ
――ことわざ辞典の死角から――

北 村 孝 一

日本は自然災害の多い国といわれる。世界のマグニチュード６以上の地震の２割弱がおきる。国土の７割は山地で急流が多いので、大雨が降ると洪水や土石流が発生しやすい。堤防や河川の改修などの対策に加え、警報や防災教育も重視され、近年は災害伝承にも目が向けられる。私は、ことわざも災害伝承の一つではないかと考え、あらためて見直してみた。

地震雷火事親父

災害といえば最初に浮かぶ表現で、本当に怖いもの、あらがいがたいものを列挙する。「地震雷」と天災を並べ、次にほぼ人災の「火事」、最後は災害と関わりない「親父」で意表をつく。親しみもあるが怖いのもたしかで、ユーモアも感じさせる。地震雷で七音、火事親父は五音で七五調。頭韻、脚韻も踏み、口調もよい。発祥は18世紀と推定され、全国的によく知られ、幼な子に怖いもの（災害）があることを最初に教える役割を果たしてきた。

天災は忘れた頃にやって来る

寺田寅彦の言葉とされ、説明ぬきに共感を呼び、ことわざ辞典にも収録される。寺田は、天災の襲来は科学の力でも阻めないが、被害は軽減できるとし、気象観測網の整備や防災教育などを提言していた。防御策が実現しないのは、天災が稀にしか起こらず「人間が前車の顛覆を忘れたころにそろそろ後車を引き出すようになるからであろう」とし、「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増す」とする鋭い指摘も垣間見られる。

夏の夕焼け田の水落とせ

「**夕焼けは晴れ、朝焼けは雨**」という。温帯の天気はおおむね西から変わるので、朝は東の空を見ると当日の、夕方は西の空を見ると翌日の天候が予測でき、春秋は特に当たる。ただし、「**夏の夕焼け川を越せ**」といい、夏は翌日雨で川を渡れない恐れがある。「夏の夕焼け田の水落とせ」といえば立派な大水対策だ。「**寝耳に水**」は、事情を知らずに驚くことの形容だが、元来は夜間の豪雨で目覚めた時には洪水が間近に迫り、慌てふためく意であった。

海にまつわるものも挙げておこう。「**二八月は船頭のあぐみ時**」－－旧暦の二月と八月は海が荒れ、船頭も出航の判断がむずかしい。「**二八月に可愛い子船に乗せるな**」ということにもなる。ことわざの裏には無数の災害体験があるといってよいだろう。

尾崎谷口宮の前

山の民のことわざにも耳を傾けてみよう。知名度は低いが、「尾崎谷口宮の前」に注目したい。「尾崎谷口」は地形を示し、「尾崎(尾先)」は山裾(尾根)の突端。「谷口」は谷や沢の出口だ（「洞口」とする異形もある)。「宮の前」は文字どおりだが、「堂の前」、「神の前」、「淵の上」など異形も多い。こうした土地を忌み、家を建てるなということで、理由は家が繁盛しない、家が鳴るなど、さまざまな説明がある。尾崎谷口は、斜面の崩壊、洪水、土石流が

発生しやすく、風当たりも強いことは科学的にも論証される。リスクが大きすぎて繁盛しないのも当然であろう。「宮の前」は俗人が住むべきでないとされるが、かつて怪異現象や災害が発生した場所で、難を避けるため宮や堂が建立されたとする異説もある（千葉徳爾）。

このことわざは、いつ頃から、どこで使われてきたのか。文献では『南紀土俗資料』(1924)が「尾崎、谷口、堂ノ前の家は栄えず」（御坊付近）とするのが早い。鈴木棠三『故事ことわざ辞典』(1956）は「尾崎谷口堂の前」を収録するが、多くの辞典は項目がない（北村監修の『故事俗信ことわざ大辞典』第2版も未収録で、不明を恥じる）。柳田国男は「なぞとことわざ」(1946)で「尾崎谷口淵の上」を取り上げ、「がけくずれや出水暴風の害が必ず多いわけであるが、近ごろはそんな場所に家を建てるものが相当にある」と述べていた。地方誌を調査すると、東は新潟から西は山口、南は和歌山まで10県、四国、九州は各２県で、山間部や山沿いに確認できた。山の民が古くから文字によらず口頭で伝承してきたものであろう。

印象的なのは『南木曽町誌』資料編（1982）で、「蛇抜けにあいやすい危険な場所なので…家を建てるものではない」と指摘していた。蛇抜けは土石流の方言だが、独特のニュアンスが付随する。２ｍを越える複数の巨石と倒木が先頭に盛り上がり、生コンクリート状の砂泥流を従え、地響きをたてて流下する。被災地を見舞った木下仙は、「渓谷に年古（ふ）りてすむ棲主（ぬし）の大蛇が、折りからの豪雨に時を得て、荒れ狂って木曽川に下り、濁流と共に奔騰して大洋に去る…土や岩や苔や草木を、平時には、私達はそれが大蛇の現身（うつしみ）であることに気づかない。風雨に時を得て大蛇が頭をもたげた時には既におそい」（『村長日記』）と述べていた。

南木曽町は、急峻な地形で多雨地域にあり、風化しやすい地質に尾張藩の森林伐採も加わって、古くから蛇抜けが繰り返されてきた。天明15年（1844）与川（よがわ）の蛇抜けで飯場を流され杣や日傭（ひよう）100名余が犠牲になった。犠牲者の出身地は、美濃など他国の者30名、妻籠など木曽が68名、不明8名で、与川の犠牲者がいないのは危険な場所を熟知し自宅から通っていたのではないかと推測されている（笹本正治）。「南木曽地方災害環境調査報告」（『国土問題』21号、1980）もほぼ同じ推論をし、地元では「尾先谷口宮の前」（「嶺先洞口宮の前」）といわれると付記していた。木曽谷の場合、蛇抜けが「増えるのは幕末からで、特に近代に多くなる」という笹本氏の指摘は、寺田寅彦の考察とも重なってくる。蛇抜けの被害史には、近現代の社会や文化のあり方が深くかかわっているのではないだろうか。

以下、1953年に南木曽伊勢小屋沢で発生した蛇抜けとその記念碑について口述し、現代との関わりを考え、アイヌが野宿する際の心得にもふれたい。

参考文献

池谷浩『土石流災害』（岩波新書、1999）
弓木春奈著『気象災害から身を守る大切なことわざ』（河出書房新社、2017）
林拙郎『斜面崩壊・地すべり・土石流による 土砂災害の発生』（技報堂出版、2021）
笹本正治『蛇抜・異人・木霊－歴史災害と伝承－』（岩田書院、1994）
脇野博「杣工」〔塚田孝編『職人・親方・仲間』（吉川弘文館、2000）所収〕
清見村教育委員会編『きよみ風土記』（清見村、1986）
遠藤ケイ『熊を殺すと雨が降る』（山と渓谷社、2002）
萱野茂『アイヌ歳時記』（平凡社、北村孝一『ことわざの雑学』（大陸書房、1984）
北村孝一『ことわざの雑学』（大陸書房、1984）

蛇抜けで押し出された巨石の上に乙女の像（笹村草家人作）が据えられ、その下に次の碑文が刻まれている。

里諺★以下１字下げ

白い雨が降るとぬける／尾先谷口宮の前／雨に風が加わると危い／長雨後谷の水が急に止まったらぬける／蛇ぬけの水は黒い／蛇ぬけの前はきな臭い匂いがする

美明書

ことわざや地元の言い伝えから、蛇抜けの体験を踏まえ、後世にぜひとも伝えたい言葉が選ばれている。

「白い雨」は、雨粒がしぶきをあげ、白っぽくなって視界がきかない豪雨。「ぬける」は蛇抜けが起こる意。「風が加わると危い」以下は、五感を働かせた災害伝承で、当事者のヒアリングでも確認されており、防災に有益なものであろう。

「美明」は、被災時に生徒の避難や救出を指揮した中学校校長の太田美明氏で、幼い犠牲者二人の父親でもあった。

碑は被災住宅跡地（現在は天白公園内）にあり、ことわざの重みと遺族の無念の思いが無言のうちに伝わってくる。

これは南木曽だけでなく、ウォーターフロントの高層マンションにうつつを抜かし、リニア新幹線を夢見る都会人にも決して無縁の話ではない、と私は思う。

八木橋宏勇（やぎはし　ひろとし）

杏林大学外国語学部教授。専門は認知言語学、社会言語学、第二言語習得論。

玉村禎郎（たまむら よしお）

京都産業大学・大学院教授。専門は日本語学。博士（文学）。日本ストレス学会理事。新村出記念財団評議員。拙論に「諺の継承と変容」（近代語学会『近代語研究』第 24 集 武蔵野書院　2024 年 3 月）などがある。

大島中正（おおしま　ちゅうせい）

同志社女子大学表象文化学部特別任用教授。専門は日本語学・日本語教育。公益財団法人京都日本語教育センター評議員。共著に『類似表現の使い分けと指導法』（アルク）、『国際化時代の日本語を考える』（くろしお出版）など。

鄭芝淑（チョン　ジスク）

韓国出身。現在、鹿児島大学共通教育センター准教授。韓国語を担当。日本と韓国のことわざの対照研究を通じて「比較ことわざ学」を模索している。著書に『ミニマムで学ぶ 韓国語のことわざ』（クレス出版）など。

北澤篤史（きたざわ あつし）

元消防士、防災士。「ことわざ・慣用句の百科事典」および「住所検索ハザードマップ」制作者。著書には『マンガでわかる 漢字熟語の使い分け図鑑』（講談社）、『マンガでわかる すごい！ことわざ図鑑』（講談社 ※2024 年 12 月 17 日発売予定）がある。

佐竹秀雄（さたけ ひでお）

日本語学研究者。武庫川女子大学名誉教授。ことわざ学会会長。『故事俗信 ことわざ大辞典』（第二版・小学館）編集委員。

星野弥生（ほしの やよい）

スペイン語翻訳・通訳者。東京外国語大学スペイン語学科卒。著書に『ミニマムで学ぶ スペイン語のことわざ』、訳書に『父ゲバラとともに、勝利の日まで』など。

千野明日香（せんの あすか）

中国文学研究者。ことわざ学会会員。著書に『中国語のことわざ』（大修館書店）、『ミニマムで学ぶ 中国語のことわざ』（クレス出版）など。

北村孝一（きたむら よしかつ）

在野ことわざ研究者。エッセイスト。ことわざ学会代表理事。著書に『ことわざの謎』、『世界ことわざ辞典』、『ことわざを知る辞典』、監修に『故事俗信ことわざ大辞典』第 2 版、〈ミニマムで学ぶ ことわざ〉シリーズ（クレス出版）など。

村山 貢司　（むらやま こうじ ）

気象予報士。NHK で気象解説を長年担当し、花粉症の専門家として知られる。著書に『台風学入門』（山と溪谷社）、『降水確率 50%は五分五分か』（化学同人）、『天気図からよみとく奥の細道』（星海社）など多数。

尾﨑光弘（おざき みつひろ）

元小学校教員。新しい「経営」概念を知り少し元気になった。が、70 年代を元気に過ごせば 80 代は寝たきりにならないという「通説」にいうほどの元気は、もうない。

永野恒雄（ながの　つねお）

立正大学非常勤講師。1949 年東京生。元高校教員。ことわざ学会理事、日本教育法学会名誉理事。著書に『ことわざ練習帳』（平凡社新書）。

鈴木雅子（すずき　まさこ）

昭和女子大学国際学部専任講師。英語とデンマーク語を専門に、ことわざや慣用表現、辞書記述に関心を寄せている。

保阪良子（ほさか　よしこ）

専門はドイツ語言語学。NHK ラジオ・テレビのドイツ語講座の講師、学習院大学独文科専任などを経て、現在はフリーのドイツ語・教職関連の講師。

ことわざ学会のご案内

ことわざ学会は、ことわざの研究およびことわざ文化の振興を目的として、2007 年 9 月に発足した学会です。その母体となったことわざ研究会は、市民と研究者が対等の立場で自由に意見を交換し、ことわざ研究を学際的に進めることを目指して 20 年余り活動し、資料集の編集や会報・研究誌の発行などを行ってきました。ことわざ学会は、その活動を引き継ぎ、さらに発展させようとしています。

日常の活動としては、ほぼ毎月例会を開催し、会員またはゲストによる研究報告がなされます。また、学会誌や会報の発行、ホームページの運営を行い、秋には“ことわざフォーラム”を開催します。

例会などの最新情報については、次のホームページをご覧ください。

http://kotowazagakkai.com

ことわざ学会は、市民に開かれた学会であり、ことわざに関心を抱き研究意欲のある皆様の参加を歓迎いたします。

ことわざ学会事務局
e-mail: kotowazagakkai@gmail.com

日本語をより深く、より楽しく知る辞典！ 好評発売中

ことわざは生きるためのヒント！

ことわざを知る辞典

北村孝一・編

定価：本体1、900円＋税
B6判変型／386ページ

日本・中国・西洋起源のことわざを約1、500項目収録。ことわざの背景や使い方の変遷をくわしく解説。類句や対義語、さらに英語例も掲載。「ことわざと比喩」「天気とことわざ」などの楽しいコラムも豊富。

ISBN978-4-09-504183-4

故事成語を知る辞典

円満字二郎・編

定価：本体1、900円＋税
B6判変型／386ページ

故事成語870語を収録。中国の故事に由来するものだけでなく、西洋・日本に起源を持つことばも取り上げ、そのことばができたいきさつを詳しく紹介。

ISBN978-4-09-504181-0

四字熟語を知る辞典

飯間浩明・編

定価：本体1、900円＋税
B6判変型／386ページ

日常生活でよく使われる約1、200語を収録し、意味と使い方をわかりやすく解説。四字熟語を使いこなし、文章や会話を豊かなものにするための辞典。

ISBN978-4-09-504182-7

小学館　小学館公式サイト https://www.shogakukan.co.jp
小学館愛読者サービスセンター　TEL.03-5281-3555

ミニマムで学ぶ
ことわざシリーズ

新刊	中国語のことわざ	千野 明日香 著	ISBN 978-4-87733-953-1
	ドイツ語のことわざ	藤村　美織 著	ISBN 978-4-87733-954-8
	スペイン語のことわざ	星野　弥生 著	ISBN 978-4-87733-955-5
	英語のことわざ	北村　孝一 著	ISBN 978-4-87733-950-0
	フランス語のことわざ	大橋　尚泰 著	ISBN 978-4-87733-951-7
	韓国語のことわざ	鄭　芝淑 著	ISBN 978-4-87733-952-4

◆シリーズ完結しました

〈A5 判／並製／カバー付／各定価 1,800 円(税別)〉

〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町 14-5　メローナ日本橋
TEL03-3808-1821　FAX　03-3808-1822　http://www.kress-jp.com/

株式会社クレス出版